

NISA(ニーサ)と老後の生活の準備

来年から始まる NISA(少額投資非課税制度)が話題である。報道等によれば証券会社での口座開設は 3 2 2 万件が見込まれている。運用商品は株式投信などのリスクのある商品が中心であろう。元本確保への選好が強い日本の個人投資家の行動としては興味深い。

リスク資産を用いてお金を貯める目的と言えば、老後の準備が考えられる。税引き後のリターンを考えることは理にかなっている。しかし本来であれば NISA 単独でなく、保有する資産全体でリスクとリターンを見て運用商品を決めることが重要なはずである。

会社員を対象とした筆者等の研究では、会社の確定拠出年金(DC)や確定給付年金(DB)で株式投資を増やしたなら、個人の資産運用でも株式投資を増やす方が望ましいとする者や、会社での運用と個人の運用は関係がないとする者が多数を占めた。資産全体でリスクとリターンを見極めるという考え方ではない世界だ。

企業で DC や DB の管理をする者にとって、従業員の個人的な資産運用については、どうすることもできない話である。しかし、従業員の退職準備という観点からは非常に重要な話でもある。

《目次》

- ・ (企業年金) : 厚生年金基金の解散と年金受給権
- ・ (証券市場) : 日本の株式市場で PBR が効かなくなったワケ
- ・ (公的年金) : 再開された社会保障審議会年金部会の注目点